

採材現地検討会の開催について

令和元年7月12日、遠野市附馬牛町中滝山国有林で、岩手南部森林管理署と岩手南部森林管理署遠野支署合同の採材現地検討会を開催しました。

雨の中での開催となった今年は、当初予定を変更し、資料等の説明は省略して、実際の採材を重視した検討会となりました。

準備した供試木スギ、カラマツ、クリ（広葉樹）の各2本、計6本により、両署の事業担当者がそれぞれ分かれて検討、実演を行ない、参加者がその考え方について意見交換する形としました。

普段採材することがない担当者は、苦慮しながら造材位置にテープで表示をしましたが、見守る参加者からは、「腐れがあるがなあ」などヒソヒソ話も聞かれ、担当者が試された検討会でした。

発表では、両署担当から各供試木の採材検討位置についての考え方のコメント後、局資源活用課から「造材回数（切る回数）の減、搬出、はい積、運搬等積み下ろしなどの時間の短縮による生産コストの削減と販売単価のアップの効果が期待できる4mを基本とした採材」など、コストへの影響も考えた採材に努めるよう指導がありました。

岩手県森林組合連合会からは、クリについて、素性が良くても根元に「目まわり」があると、評価はパルプ材となること、隠れ節上の死節（しにぶし）からの腐れがどこまで入っているか確認等の提起があり、元玉の腐れのカラマツとクリの腐れを確認するべく造材を行い確認しました。

今回の検討会を受け、事業体と署が連携し、コスト削減と有利採材に向けた取組を進めることを意思統一し、今年度の検討会を終了しました。



開会式



採材検討状況



岩手県森林組合連合会からの指導



根腐れの状況確認